

WG2 メンバーコメント

WGの研究成果の具体的な活用方法について、メンバーの方からご提案いただきましたので紹介します。

研究成果について「具体的」な活用方法の提案

中島 武(品質保証総合研究所)

経営者と内部監査の責任者である管理責任者に是非このレポートを読んでいただき“ISO業務なんてない”ことを従業員の方に伝え、現在実施されている内部監査が有効に機能し、従業員がハッピーになっているのかを真剣に見直していただきたい。

ISO 9001は組織(企業)の存続のために活用できるツールと思われまふ。日常業務に“PDCA”の考え方を採用し、現状の業務体制で良いのか、改善点はないか、顧客に満足感を与えているか等「内部監査のチェック項目」の妥当性を再度確認してください。▼

企業の支援活動に活用

阿津沢 潔(阿津沢技術士事務所)

今回の研究会で学習した、経営に役立つ内部監査をうまく活用して、小生の行っている企業への支援活動に生かしていきたいと考えている。研究会の中で、「役員が監査員の一員になって、本文中のレベル3の監査を行い、改善活動に結びつけている会社」や「ミニマネジメント監査と称

して、社長が毎月、各部門の目標達成度合いや活動をチェックし、効果を上げている会社」などを知ったが、内部監査を通じて、業務の効率化や改善に役立つシステムにしていきたいと考える。▼

まず自社の内部監査の実態評価を

奥山 孝司(住金マネジメント)

今回まとめた「経営に役立つ内部監査」を有効に活用して頂くため、経営者、管理責任者が報告を読む前に自社の内部監査の実態を評価してもらいたい。それぞれの立場で具体的改善課題を整理して頂き、読んだ後にそれぞれの課題の見直しと重点推進項目の実行計画の作成をして、その後経営者と管理責任者が意見交換を行い、それぞれの責任項目についての合意事項を実行することが効果的と思われまふ。

まず実態把握、課題の認識、責任の自覚、課題の改善計画への段階を踏んで頂くことで報告の意図することが理解でき、効果的な改善につなげることができると思われまふ。▼

意義ある内部監査に向けて

国府 保周(コンサルタント)

内部監査員が真価を知ってやる気を出せば、よい成果が望めまふ。自分の内部監査の役立ち状況を知り、社内の良好事例を見て、ヒントをつかむと、自分なりに工夫したくなるものです。内部監査成果の情報を、上層部だけでなく内部監査員に届けることで、内部監査員の意欲の高揚

を期待しています。また内部監査成果に報いる社内制度を設けたり、内部監査活動が技量向上に結びつくことを描写したりすることで、優秀な人が内部監査員になりたくなる風潮を産み出したいものです。

内部監査を、ボランティア的なものから脱皮させて、有効で役立つ成果を提供できる意義のある活動になるよう、この研究報告をご活用ください。▼

改善課題を持ち寄って意見交換を

笹野 悟(ケイ・シー・シー)

監査員が監査で検出した指摘事項、改善課題を持ち寄って、下記のポイントについて意見交換することをお勧めします。下記ポイントは当たり前のことですが、これまでの監査の問題点、改善すべき点が不思議なほど出てきます。これを各監査員が次回以降の監査に生かすことによって力量が向上し、経営に役立つ内部監査へと変化することが期待できます。

- ①指摘の仕方：指摘の基準は明確か、客観的事実を捉えているか、何が問題なのか。
- ②発生原因：対策の取れる原因を捉えているか、仕組みの原因を捉えているか。
- ③対策：原因を除去する対策になっているか。遡及、暫定、恒久処置を検討しているか。水平展開は実施しているか。

宝探しができる監査員の育成を

志澤 達司(出光興産)

ISO 9001の有効活用は、規格要求事項に紐付けされ自社に合った「仕組みの整